

日本地球化学会ニュース

No. 80

1977. IV. 1

会告 1977年日本地球化学会年会

主催 日本地球化学会

共催 日本化学会

日時 10月20日(木)～22日(土)

会場 東京大学理学部化学教室新館

内容 一般討論および特別講演

講演申込締切り 7月9日(土)

同封の別紙申込用紙により申込んで下さい。

討論時間は20分以内ですが、プログラム編成上変更させていただくことがあります。スライドは35mmに限ります。

講演要旨原稿締切り 8月13日(土)

講演申込みを受け付け次第、別紙の要旨原稿表題をつけたオフセット用原稿用紙をお送りします。それに黒インクで清書し、下記へお送り下さい。要旨は1,200字原稿用紙1枚以内とします。要旨の表題、氏名は申込みと同一にして下さい。

要旨集代 2,200円 郵送希望者は送料300円を追加して下さい。

要旨集予約および参加申込締切り 8月13日(土)

要旨集は印刷部数を限定しますので、御入用の方は、参加または講演申込の有無にかかわらず、別紙申込書で申し込んで下さい。今回は参加費を特に戴きません。

総会 10月21日(金) 11時～12時

懇親会 10月21日(金) 18時頃より(会費2,000円)

申込書・予約金送付先

〒106 東京都港区六本木7-22-1

東京大学物性研究所(424B室)

1977年度日本地球化学会年会実行委員会

(電話(03)-402-6231、内線629,630)

選挙公示 日本地球化学会1978・1979年度役員選挙の立候補者および推薦候補者の届出について 日本地球化学会役員選挙管理委員会

1977年4月1日

本会会則および役員選出細則により、1978・1979年度役員選挙を次の日程で行ないます。

立候補者・推薦候補者届出締切り 7月31日(必着)

選挙公報・投票用紙・会員名簿発送 8月25日

投票締切り 9月26日(必着)

選挙結果公表(総会) 10月21日

つきましては、下記により、会長、副会長、監事および評議員に対して、それぞれ立候補者および推薦候補者の届出をしていただくようお願いします。

1. 会長 1名、副会長 1名、監事 1名、評議員 20名を選出します。
2. 立候補者の届出は、届書を立候補者自身が、
i) 本委員会に持参、またはii) 本委員会宛に送付して下さい。
3. 推薦候補者の届出は、推薦候補者名と推薦者名を記した届書に、推薦候補者の承諾書をそえて、推薦者またはその代表者が、
i) 本委員会に持参、またはii) 本委員会宛に送付して下さい。
4. 第2項と第3項に記した以外の方法で届出が行なわれた場合には、届書をうけつけることができません。
5. 郵送の場合は「書留郵便」として下さい。届書の封筒の表に「選挙」と書き入れて下さい。
6. 届出の締切りは、1977年7月31日(必着)です。
7. 本委員会の所在地は、東京都杉並区高円寺北4-35-8 気象研究所地球化学研究部内です。
(〒166 電話03-337-1111 内線75)

新会員名簿発行のため、住所および勤務先変更のあった会員は、かならず日本学会事務センターへご連絡下さい。
6月30日を締切とします。

学会名と会員コード番号(会費請求書の年度、金額の前の二ケタの番号)を明記のうえ下記へ。
日本学会事務センター日本地球化学会係
〒113 東京都文京区弥生2-4-16

科学者憲章（仮称）第2次案に対して御意見を
お寄せ下さい。

日本学術会議

人間と科学特別委員会

日本学術会議では、現在、科学者憲章（仮称）をつくる作業が行なわれている。第70回総会（1976年5月）において、学術会議は「再び科学研究基本法の制定について」政府に勧告することを決議し、政府が科学研究に対してとるべき方向を示したが、それと同時に、科学者が負う責務を国民の前に明かにすることを付記した。したがって現在作業の行われている科学者憲章（仮称）は、科学者の権利保護や研究体制の整備など国の責任を定める研究基本法と対をなして、科学者の責任を定めるものといえる。

ここにいう科学者とは、全ての学問において自己の意志をもって研究の方向を決定できる人のことを指しているが、日本学術会議は、その発足にあたっての声明にもみられるように、人類の福祉向上のために貢献することを誓い人類の平和のため学術の進歩に寄与するよう努力を傾注するという立場から、科学者の責務を明かにすべく、我が国科学者の代表機関として科学者憲章（仮称）を検討しているものである。

しかしながら、科学者憲章（仮称）は単に学術会議が決定すればよいというものではないと考えられる。科学者憲章（仮称）は全国の科学者の意見をとり入れ、全国の科学者がその精神を遵守するようなものでなくてはならない。

学術会議では、科学者憲章（仮称）を第10期の終り（1977年10月総会）までにまとめたと考えているが、全ての科学者が守る憲章を実現するために、早い段階からこの憲章案を全国の科学者に知らせて意見をきくのが適当と考え、ここに第2次案を全国の科学者に公表することにした。卒直な意見をおよせねがい、優れた科学者憲章（仮称）をつくりあげるための御協力をおねがひする。

科学者憲章（仮称）第2次草案

自然・社会・人間を対象とする科学研究は、人類の福祉に大きな貢献をしてきたが、研究者の予想を越えた結果を招来する場合も少くないので、害毒をもたらす危険も秘めている。我々科学者は、科学者である前にまず人間であり市民であることを想起し、専門職として人間の尊厳を守る義務と責任を負うて

いることを自覚する必要がある。

(1)我々は科学が人類のためのものであることを確認する。

我々は、人類の物質的並びに精神的生活をより豊かにするために科学の研究をするものであることを自覚する。このため我々は、科学の成果の当を得ない使用によって生じる結果について警告し、科学がそのような使われ方をされないよう努力する必要がある。また、人類の不安要因を除去するための研究を積極的に行うことも我々の責務である。

(2)我々は真理を守り通す勇気をもつと共に、独善を排し、事実に対しては謙虚でなければならない。

我々は、個人や集団の利益、政治や社会的集団の圧力などによって真理をまげることがあってはならない。しかし、同時に、自己の見解や学説に対する建設的な批判を率直に受け入れる謙虚さを持ち、より高い真理への扉を開く熱情を持たなければならない。
(3)我々は創意性を尊重する。また自己の研究に対しては、客観的な立場から位置づけを行い、価値判断を持つことに心がける。

我々は、自己の研究成果を公開し、広く多くの科学者の批判をあおぐように心がけると共に、自然科学・社会科学・人文科学が連繫を保ちながら調和のある発展をとげ、科学の発展が人間の尊厳の高揚に寄与し、自然と人間の生活とのよりよき調和に役立つよう留意しなければならない。

(4)我々は一切の非合理主義には反対する立場をとるものであるが、科学の研究によってすべてが明らかにされるものではないことも認識している。

科学は非合理主義や迷信とは両立しない。我々は、非合理主義や迷信が神秘主義につながりファシズムや戦争の温床となったことに思いを致し、あらゆる種類の非合理主義や迷信とたたかう社会的責任を負っていることを知るべきである。我々は、その時点において知り得る能力に限界があることを自覚して、科学万能主義を排し、研究成果の悪用はもちろん、範囲を超えた乱用や誤用についてもつねに細心の注意を怠ってはならない。

(5)我々は科学の進歩が有する意義を国民に伝え、国民の科学的水準の向上に努める。

我々は、専門職として、科学研究の成果の応用に対して国民が適確な判断を下せるよう、客観的なデ

日本地球化学会 1977年度年会講演・要旨集申込用紙（7月9日×切）

表題：

氏名（所属）：

*講演者には○をつけること

講演時間	講演申込み受理	要旨受理
分	月 日	

要旨原稿表題、氏名（黒インク・清書）

表題：

氏名（所属）：

要旨原稿用紙
等送付先

住所 〒□□□-□□

氏名

様

申込書兼受領書
（申込×切8月13日）

年会：参加，不参加

要旨集：要，不要

懇親会：出，欠

氏名

様

1977年 月 日

要旨集 2200円 送料別 300円

懇親会 2000円

計 円也 領収しました。

1977年地球化学年会 責任者 本田雅健

*各項目該当のものを○で囲む

〒106 東京都港区六本木7丁目 東京大学物性研究所

1977年地球化学会年会実行委員会

本田雅健 行

〒106 東京都港区六本木7丁目 東京大学物性研究所

1977年地球化学会年会実行委員会

本田雅健 行

ータを提供する義務を負っている。このことによって、科学研究の基盤である国民の生活水準と知的水準の一層の向上が期待される。

評議員会報告

とき：1976年10月13日、ところ：名古屋市王山会館
出席者：小穴会長、本田副会長、青木、市川、岡部、北野、倉沢、桑本、猿橋、杉浦、杉村、寺田、鳥居、増田、三宅各評議員

1. 報告

a. JSC地球化学宇宙化学研連、IAGC関係の報告があった。1977年5月IAGC総会（パリ）の日本代表は本田会員とし、IAGC役員として、本田、松尾、小穴各会員を推薦した。

b. 各委員会

庶務、編集、ニュース、極地、会則、環境、将来計画各委員会の活動状況の報告があった。

2. 議事

1) 日本化学会からの年会開催補助金（2万円）の受領を承認した。

2) 2月例会は2月19日東京において生命の起源をテーマで行うことにした。

3) 1977年年会は東京大学で行うことにした。

4) 名誉会員に飯盛、石橋、木村、南、菅原、太秦の6会員を推薦することとした。

5) 1976年度総会次第をきめ、議長を本田会員におねがいすることとした。

6) 1977年度予算案・事業計画案

G. J. を200頁から250頁に増頁、地球化学を年2回刊にすること。会費4,000円を6,000円に改訂すること等を骨子とする予算案・事業計画案の総会提出を承認した。

7) G. J. 超過頁代は、8頁をこえた場合国内外ともに、1頁につき4,000円とすることをきめた。

8) 会費改訂が承認された場合、会則第5条、第6条、第10条、第13条の改訂案を総会に提案することとした。

9) 入会、正会員19、賛助会員1、退会、正会員2を承認した。10月現在会員数は下記のとおりになった。

正会員	賛助会員	名誉会員	合計
819	18	7	844

会員異動

入会（10月、申込順）

広田 致（東海大海洋）、辻 康（名大地科院）、
長江亮二（名大地科院）、中島 進（岡山大農研）
福井 深（清水市環境公害）、池田朔次（東工大資源化学研）、白川英樹（東工大資源化学研）、堤真（岡山大理院）、浜村憲克（愛知衛研）、福島和夫（都立大理）、本田勝彦（東大理院）、大岸敏正（基礎地盤コンサルタンツ）、浜野洋三（東大理地物）
田中霧子（放医研）、藤崎克博（国際航業）、小泉盛人（東京都清掃局）、佐藤博明（金沢大理地学）
C. S. Wong (Inst. Ocean Sci. Canada),
M. Rowe (Texas A and M Univ. USA)

退会（10月）

坂本峻雄（東京）、石川俊夫（静岡）。

入会（2月、申込順）

野村昭之助（上智大理化）、高江洲瑩（上智大院）、
林 保（上智大院）、河村公隆（都立大院）、町原勉（都立大院）、朴 吉淳（都立大理研究生）、山本 徹（愛媛公害研）、益永茂樹（東大院）、大友幸一（大東化学）、坂本あかね（気象協会東海）、
中曾根節子（東海大学生）、近藤正夫（愛知公害調査センター）、柳田昭平（東大宇宙線研）、深瀬茂（北大水産）、海老原充（東大院）、松本勝（日本テトラポッド）、児玉理彦（日本テトラポッド）、
L. M. Barron (Geol. Mining Mus. Sydney, Australia),
G. Michard (Univ. Paris, France),
H. Meier (Staatliches Forschungsinstitut für Geochemie, Bamberg, W. Germany)

退会（2月）

渡辺功（大阪）、藤島泰隆（北海道）、稲葉明（新潟）、島津光夫（新潟）、久城育夫（東京）、篠田晋治（東京）、桐山良一（大阪）、野間泰二（川崎）、田中峰雄（清水）、富樫幸雄（川崎）

第3回「無脊椎動物および植物の石灰化機構」国際研究集会 日本学術会議主催（予定）

会期：1977年10月7日～13日

組織委員会世話人 大森昌衛

〒112 文京区大塚3-29-1

東京教育大学理学部地質学鉱物学教室

会場：三重県志摩郡阿児町賢島

第21回国際理論応用陸水学会議予告

主催：日本学術会議（予定）

期日：1980年8月24日～31日

会場：国立京都国際会館

内容：陸水に関する生物学的および無機的諸分科学とそれらの総合的諸問題について討論する。

1977年度学術賞「地球化学研究協会三宅賞」受賞候補者の推薦

地球化学の研究に著しい業績をおさめた科学者に毎年贈呈される。賞状および副賞（賞牌および賞金30万円）で、1年1件である。

推薦×切：1977年9月18日

希望者は、推薦用紙がとどいているので学会事務所に連絡されたい。尚現在までの受賞者は下記の通りである。

第1回（1973）北野康（名大）、第2回（1974）本田雅健（東大）、第3回（1975）木越邦彦（学習院大）、第4回（1976）小山忠四郎（名大）。

近着書・新刊紹介

○Global Tectonics and Earthquake

C. Lomnitz 著 Elsevier 出版（1973）

320頁 10,660円

著者はメキシコ国立大地震学科の主任である。最近の海洋底拡大説をバックに、地震との関係を論じているが、これは地震学者でない人にも理解しやすいのべられている。またある地点での地震のリスクを如何に計算するかという方法にもふれている。世界の各地域ごとの歴史的大地震について、1900年から現在までのよくまとまったリストがあつて、入門者にも、専門家にも役に立つものであろう。（杉村）

○Physical Principles of Rock Magnetism

F. D. Stacey, S. K. Banerjee 著

Elsevier 出版（1974）195頁 7,800円

岩石磁気学の一般的入門書として、学生、大学院生に役に立つものであろう。（杉村）

○Composition and Petrology of the Earth's

Mantle

A. E. Ringwood 著 McGraw-Hill 出版

（1975）618頁

学会カレンダー 1977（国内）

月	期	間	学会名	会 場 開催地	その他
4	1～4		日本化学会年会	大阪近大	
	7～9		日本海洋学会(春)	東大農	
	12～14		日本地震学会	東大理	
	14～16		日本火山学会	東工大	
5	24～26		日本気象学会(春)	気象庁	2/28×切
6	2～3		分析化学討論会	奈良	3/19×切
	16～18		日本陸水学会	日光	
	29～7/1		理工学における 同位元素発表会	東京	
7	5～7		日本温泉科学会	島根温泉津	
9	4～10		IUPAC	東京	3/15×切
	8～10		日本海洋学会(秋)	神戸大	
10	4～6		日本気象学会(秋)	札幌	7/20×切
	5～7		放射化学討論会	金沢	
	11～15		日本分析化学会	山口	8月下旬×切
	20～22		日本地球化学会 年会	東大理	7/9×切
	30～31		日本放射線影響 学会	仙台	8月中旬×切

学会カレンダー 1977（国外）

5	10~13	IAGC	元素の起源	パリ, 佛
6	20~24	陸水の侵蝕と運搬	アルジェ	
8	1~6	空気の質とオゾン	ボールダー, 米	
	9~19	IASPEI/IAVCEI 会議	ダーラム, 米	
	16~24	国際第4紀学会	バーミンガム, 英	
	17~25	IAGC 水と岩石相互作用	ストラズブル, 佛	
	22~27	南極地質地球物理	マジソン, 米	
	22~9/3	IAGA/IAMAP 総会	シアトル, 米	
10	16~20	物探, 地化学探鉱	オタワ, カナダ	

編集者 山 登 発行所 日本地球化学会
〒166 東京都杉並区高円寺北4-35-8
気象研究所地球化学研究部内(03)337-1111内75
振替東京8-38679, 三菱銀行高円寺支店,
北海道拓殖銀行荻窪支店, 三井銀行高円寺支店

日本地球化学会ニュース

No. 81

1977. VIII. 10

215-314

1977年度 日本地球化学会年会

主催 日本地球化学会 後援 日本化学会

日時 1977年10月20日(木)～10月22日(土)

会場 東京大学理学部化学教室新館(3,4,5階)

東京都文京区本郷7-3-1

(連絡先 03-812-2111 内線6387不破敬一郎)

日程表 受付 10月20日 9:00より

	会場	9 30	11 30	12 30	13 30	17 30
20日(木)	1	1101～1109			1201～1213	
	2	2101～2110			2201～2214	
	3	3101～3110			3201～3213	
21日(金)	1	特別講演 1301, 1302 	総会 		1401～1412	懇親会 山上会議所
	2				2401～2411	
	3				3401～3411	
22日(土)	1	1501～1509			1601～1614	
	2	2501～2509			2601～2613	
	3	3501～3509			3601～3611	

特別講演 10月21日(金) 9:30～11:30 第1会場

1301 火星及び金星の大気 清水幹夫(東大宇航研)

座長 本田雅健

1302 微量元素の珪酸塩鉱物への分配 飯山敏路(東大理)

座長 長沢 宏

総会 10月21日(金) 11:30～12:30 第1会場 懇親会 10月21日(金) 18:00より山上会議所

会場: 東京大学理学部化学教室新館(3,4,5階予定)

1会場は5階講堂, 2, 3会場は講義室

講演時間: 討論を含め15分 懇親会: 2,000円

要旨集: 2,200円(送料別300円)

- 第1日 10月20日(木)
第1会場(9:30~12:30)
座長 綿抜邦彦(正), 一國雅己(副)
- 1101 重炭酸カルシウム溶液からの calcite, vaterite の生成
島袋浩明, °渡久山 章(琉球大)
- 1102 CaCO₃の結晶化過程の速度論的研究
大森 保(琉球大)
- 1103 炭酸カルシウム中へのバリウム及びマグネシウムの同時分配
北野 康(名大水研)
渡久山章(琉球大), °新垣 武(名大水研)
- 1104 水溶液からの CaCO₃ 晶出時における Cd²⁺ の挙動
北野 康, 金森暢子, °黒沢亮子(名大水研)
- 1105 aragonite の calcite への transformation における微量元素の挙動
北野 康
金森暢子(名大水研), °吉岡小夜子(愛教大)
- 1106 カルサイトードロマイイト固溶体の水溶液からの合成とフッ素の挙動
大出 茂, 北野 康(名大水研)
- 1107 炭酸カルシウムによるホウ酸の共沈殿
北野 康(名大水研)
奥村 稔, °井戸垣正俊(島根大文理)
- 1108 カルサイトに含まれる硫酸イオンの存在状態について
°高野穂一郎, 綿抜邦彦(東大教養)
- 1109 石こう-水溶液間のストロンチウムの分配
畝木泰子, °山本雅弘(岡山大理)
-
- 第1会場(13:30~17:30)
座長 北野 康(正), 兼島 清(副)
- 1201 多摩丘陵における表面流出水の硝酸塩について
°小倉紀雄, 吉田和広(東京農工大農)
- 1202 野川湧水中の硝酸塩の起源
°吉田和広, 小倉紀雄(東京農工大農)
小池勲夫(東大海洋研)
- 1203 南大東島の地下水の水質-とくにドロマイイト質石灰岩との関係について
°大森 保
渡久山章, 平良初男, 兼島 清(琉球大)
- 1204 秋田県宝倉鉱山周辺表流水中の溶存成分
黒田和男, 東野徳夫, °坂巻幸雄,
永井 茂(地調)
- 1205 東京およびその周辺地帯における地下水中の微量元素(分布とその経時変化について)

- °谷崎良之, 高田茂(都アイソトープ研)
- 1206 硫黄鉱山廃水のヒ素の酸化と鉄との共沈効果について
後藤達夫(岩手大教育)
- 1207 尾瀬沼の底質土中の化学成分について
°斉藤武夫, 飯塚俊彦, 氏家淳雄(群馬衛研)
- 1208 本邦炭酸塩岩中の脂肪族炭化水素
°米谷宏, 大場信雄, 藤貫正(地調)
- 1209 九州地方に分布するドロマイイト岩, 石灰岩のフッ素含量
赤岩英夫, °相沢省一(群馬大工)
- 1210 丹波・美濃帯の古生層泥質岩の化学組成
°稲積章生(香川大教育), 樽谷俊和(九大理)
- 1211 ベントナイト層中に存在するノジュールについて
°入江敏勝, 斉藤信男(山形大理)
- 1212 沖縄大東島産の Rainbow stone の化学組成と鉱物組成
°兼島 清(琉球大)
高江洲瑩(雙葉高), 東田盛善(琉球大)
- 1213 北海道北部地域における第3系泥質岩の硫黄含量と堆積環境
粕 武(地調)

- 第1日 10月20日(木)
第2会場(9:30~12:30)
座長 金森 悟(正), 半田暢彦(副)
- 2101 酸化解成生成物からみた堆積高分子有機物の特徴
°町原 勉, 石渡良志(都立大理)
- 2102 湖底堆積有機物の酸化的および還元的環境における分解速度
°小山忠四郎, 西村弥重
松田ひろみ(名大水研)
- 2103 人工汽水湖におけるメタンの生成機構について
二階堂 要(愛媛大理・臨海)
- 2104 堆積有機物の熱反応実験Ⅲ, 堆積物の種類と炭化水素発生との関係
石渡良志(都立大理)
- 2105 水溶性腐植の光分解について
佐藤 修(名大水研)
- 2106 湖沼懸濁粒子の沈降量
杉浦敏昭, °半田暢彦(名大水研)
- 2107 東海村沿岸域海水中のセレン, バナジウム, モリブデンの分布
°鈴木款, 杉村行勇(気象研),
三宅泰雄(地化協)
- 2108 海水中の溶存遷移金属のXAD-オキシン法による分離定量
杉村行勇, 鈴木款(気象研),
°西山健二(東海大), 三宅泰雄(地化協)
- 2109 海水中の溶存有機金属錯体の分離分析法
°杉村行勇, 鈴木款(気象研), 三宅泰雄(地化協)

- 2110 海洋における溶存有機金属錯体の分布について
°杉村行勇, 鈴木 款(気象研)
三宅泰雄(地化協)
-
- 第2会場(13:30~17:30)
座長 坪田博行(正), 桑本 融(副)
- 2201 天然水中の無機リンのルーチン分析法-Strickland and Parsons 法の改良
乗木 新一郎(北大水産)
- 2202 海水のアルカリ度の自動測定
坪田博行(東大海洋研)
- 2203 船上用栄養塩自動分析装置の試作
°児玉幸雄, 坪田博行(東大海洋研)
- 2204 海洋における窒素代謝
三宅泰雄(地化協), °猿橋勝子(気象研)
- 2205 海洋におけるセレンの分布と収支
°鈴木款, 杉村行勇(気象研), 三宅泰雄(地化協)
- 2206 分子空間から見た海水の塩濃度
藤原鎮男(東大理)
- 2207 東部インド洋の溶存ガス分布
°蒲生俊敏, 堀部純男(東大海洋研)
- 2208 ベーリング海および北部北太平洋におけるカルシウム
角皆静男, °渡辺康憲(北大水産)
- 2209 外洋における Fe, Mn, Al について
°植松光夫, 角皆静男(北大水産)
- 2210 ベーリング海海水中の銅の分布と存在状態
前田 勝(東水大)
- 2211 海藻種を通じての元素分布の特徴について
°山本俊夫, 大塚由紀子, 岡本健一,
岡崎正明(京教大)
- 2212 海洋における物質の鉛直輸送の研究: 主に天然放射性核種を利用して
°南川雅男, 角皆静男(北大水産)
- 2213 外洋水中の Th-234 について
°南川雅男, 田中教幸, 原田 晃
角皆静男(北大水産)
- 2214 北太平洋における Ra-226 の分布
°原田晃, 角皆静男(北大水産)

- 第1日 10月20日(木)
第3会場(9:30~12:30)
座長 鳥居鉄也(正), 中井信之(副)
- 3101 降水(東京)のpHについて
三宅泰雄(地化協)

- 猿橋勝子, °金沢照子(気象研)
- 3102 北海道渡島地区における塩類降水量について
°中谷 周, 西村雅吉(北大水産)
- 3103 日本各地における Pb-210 の降水量
°品川高儀, 角皆静男(北大水産)
- 3104 土壌中の Ra-226 と Pb-210 によるラドンの大気圏への flux の決定法
角皆静男, °倉田降喜(北大水産)
- 3105 中国水爆実験による放射性降下物の成層圏における滞留時間について
三宅泰雄(地化協), °葛城幸雄(気象研)
- 3106 成層圏および対流圏上部を経由する物質輸送と2層モデル
°角皆静男, 品川高儀(北大水産)
- 3107 昭和基地におけるエーロゾルの化学成分
°中谷 周, 西村雅吉(北大水産)
安孫子 勤(室蘭工大)
- 3108 昭和基地周辺の塩湖の栄養塩分布について
°福井 深(清水環境), 鳥居鉄也(千工大)
岡部史郎(東海大海洋)
- 3109 南極リュッオホルム湾の湖沼水中の微量金属
佐野方昂(愛知公ホセ), 中井信之(名大)
- 3110 南極の塩湖水中の有機成分
°松本源喜, 半谷高久(都立大)
鳥居鉄也, 田中良樹(千工大)

- 第3会場(13:30~17:30)
座長 堀部純男(正), 松尾禎士(副)
- 3201 蛇紋石-水間の重水素分配係数の実験的研究
°堤 真, 酒井 均(岡大温研)
- 3202 石英-水系における酸素同位体交換反応定数-特に100°C以下での交換反応定数について-
川辺岩夫(名大理)
- 3203 酸素同位体組成の正確に知れた鉱物の合成の試み
°木島宣明, 酒井 均(岡大温研)
- 3204 硬石膏-水系における酸素同位体分別係数の温度依存性
°千葉仁, 日下部実(東工大理)
- 3205 真空中スズ-強リン酸による岩石中の全イオウの定量および ³⁴S/³²S 比分析について
°上田晃(東北大理), 酒井均(岡大温研)
- 3206 薩摩硫黄島火山における同位体地球化学Ⅲ
火山ガス凝縮水中のホウ素同位体組成
°神崎忠雄, 吉田稔(東工大理), 野村雅夫,
小高正敏, 垣花秀武(東工大原子炉)

- 小沢竹二郎(埼玉大工)
- 3207 湯河原熱水系のボーリングコアに含まれる方解石の酸素および炭素同位体比
°渡辺修一, 日下部実(東工大理)
平野富雄, 大木靖衛(神奈川温研)
- 3208 神岡鉱山に於けるグラファイトの役割と炭素同位体組成
和田秀樹(名大理)
- 3209 堆積層中の炭素の同位体
°木越邦彦, 鈴木信子, 白木真理(学習院大理)
- 3210 和歌山地方の降水中Sの起源について
°辻 康, 中井信之(名大理)
大原洋治(和歌山工専)
- 3211 南極みずほ高原における積雪の酸素同位体組成
加藤喜久雄(名大水研)
- 3212 南極McMurdo地域の同位体的研究による環境の変遷
°中井信之, 水谷義彦, 清棲保弘
今井圭巖(名大理)
- 3213 琵琶湖堆積物および鐘乳石の同位体比による気候変動の推定
°中井信之, 白井靖敏(名大理)

第2日 10月21日(金)

第1会場(13:30~17:30)

座長 市川 新(正), 安部喜也(副)

- 1401 小さな沼におけるABSの分布とその挙動
内山征洋(群馬県公害研)
- 1402 PCBの地球化学的サイクルについて
°児玉剛則, 織田春雄, 荻田晴久(愛知公害セ)
- 1403 ステロールから見た不溶性脂質の起源と挙動
°西村弥亜, 小山忠四郎(名大水研)
- 1404 XAD樹脂による汚濁河川水中の有機物の分離
°浜名 浩, 石渡良志(都立大理)
- 1405 多摩川水中のクロロホルム抽出物質—分子量分画成分—
小椋和子, °間宮利夫(都立大理)
- 1406 都市大気中の微量有機成分の分析
°安部喜也, 藤井敏博, 横内陽子(国立公害研)
- 1407 統計的手法による大気浮遊粉じんの解析
江場弘樹(愛知公害セ)
- 1408 河川水質に関する一統計処理について
°糸山東一(香川大教育), 真鍋俊彦(徳島大工)
- 1409 熊本県白川の一定点における水質の変動
°植木肇(熊本衛研), 太田原幸人(熊本女子大)
- 1410 河川水溶存成分濃度の経時変化—住吉川の場合—
°日下讓, 辻治雄, 森本明夫, 一山秀樹

- 大飼修三, 根来義章, 竹原明雄,
天王寺裕子(甲南大理)
- 1411 多摩川の水質解析へのリモートセンシング技法の応用
市川 新(東大工)
- 1412 東及び南アジア周辺海洋環境における有機塩素化合物の分布と挙動
°立川 涼, 田辺信介, 岡本 拓,
高橋雄二(愛媛大農), 中村泉(京大農)

第2会場(13:30~17:30)

座長 脇田 宏(正), 森岡正名(副)

- 2401 天然水中の水和酸化鉄(III)および酸化鉄(III)の化学的性質(その4)
°古川征弘(栗田工業)
金森 悟, 北野 康(名大水研)
- 2402 水和酸化アルミニウムと溶存イオンの相互作用について
°忽部一也, 金森悟(名大水研)
- 2403 鉄質沈殿物中のシリカ
鈴木励子(東北大学)
- 2404 常温付近における水の気液二相間の同位体分配
°垣内正久, 松尾禎士(東工大理)
- 2405 硫酸銅結晶水における水素同位体の席選択
°北 逸郎, 松尾禎士(東工大理)
- 2406 He/Ar比と地震予知
杉崎隆一(名大理)
- 2407 αトラック法による土中ラドンの測定とその応用
°村松久和, 秋葉丈仁, 中原弘道
村上悠紀雄(都立大理)
- 2408 地入り地帯における地下水中のラドン濃度と2,3の溶存成分—長野県奈良尾地区の場合—
横沢冲彦(長野高), °佐藤純(明大工)
佐藤和郎(東大震研)
- 2409 “ヘリウム・スポット”と松代地震の成因
°脇田 宏, 藤井直之(東大理)
松尾禎士(東工大理), 野津憲治(筑波大化)
- 2410 松代地震と地下水組成
°野津憲治, 小沼直樹(筑波大化)
脇田 宏, 藤井直之(東大理)
松尾禎士(東工大理)
- 2411 松代群発地震に伴う湧水の同位体的研究
°松尾禎士, 日下部実, 高橋一馬, 形山賢二(東工大理), 北野 康(名大水研),
中村誠佑(宮崎大工)

第3会場(13:30~17:30)

座長 佐藤和郎(正), 田中剛(副)

- 3401 JG-1花崗閃緑岩のfission track年代
鈴木達郎(筑波大地球科学)
- 3402 層状硫化物鉱床の鉛が示す地殻の進化
佐藤和郎(東大震研)
- 3403 陸産マンガン・ジュール中のウラン及びトリウムとその同位体
°平良初男(琉球大理)
北野 康(名大水研), 兼島清(琉球大)
- 3404 伊豆・箱根・富士地域火山岩類のストロンチウム同位体組成
°倉沢一(地調), 藤巻宏和(東大理)
- 3405 大西洋中央海嶺玄武岩のSr同位体比と水含有量及び水素同位体比
°佐竹洋(東工大理), 松田准一(神戸大理)
- 3406 一の目潟超塩基性捕獲岩類のRb, Sr含有量および⁸⁷Sr/⁸⁶Sr比
青木謙一郎(東北大理)
°座主繁男, 兼岡一郎(東大理)
- 3407 一の目潟の超苦鉄質・苦鉄質捕獲岩中の希土類元素存在度
°田中剛(地調), 青木謙一郎(東北大理)
- 3408 伊豆・マリアナ弧の希土類元素の地球化学—特に小笠原諸島の特異性について—
°増田彰正, 藤谷達也(神戸大理)
- 3409 東北日本弧にみられる希土類元素存在度の帯状変化
増田彰正, °藤谷達也(神戸大理)
- 3410 生物体中の希土類元素(I)—若干の海洋性魚介類のカルシウム質器官について—
増田彰正, °池内嘉宏(神戸大理)
- 3411 Cr, Ni, Th量からみた島弧火山岩の成因
増田康之(大阪府大教養)

第3日 10月22日(土)

第1会場(9:30~12:30)

座長 杉村行勇(正), 寺田喜久雄(副)

- 1501 海洋表層における物質輸送のトレーサーとしてのBe-7
角皆静男, °田中教幸(北大水産)
- 1502 沿岸域における懸濁粒子と沈降粒子の平均組成の比較
°植松光夫, 角皆静男(北大水産)
- 1503 沿岸におけるPb-210法による堆積速度と粒子束の関係
°角皆静男, 田中教幸,
植松光夫(北大水産)
- 1504 ベーリング海堆積物中のマンガンの挙動
°日下部正志, 角皆静男(北大水産)
- 1505 深海堆積物中のThおよびRaと, Raの移動
角皆静男, °山田正俊(北大水産)
- 1506 海底堆積物の初期続成過程に伴うウランとその同位体比の変化
°日下部正志, 角皆静男(北大水産)
- 1507 海底下グリーンタフ層に浸した海水の低温変質モデル
水上正勝(函館工専)
- 1508 鹿児島湾北部における底泥と噴出ガス
°小坂丈予, 平林順一(東工大), 鎌田政明,
大西富雄, 坂元隼雄(鹿児島大), 小沢竹二郎(埼玉大)
- 1509 鹿児島湾湾奥部海域の水質異常(続)
°鎌田政明, 坂元隼雄, 米原範伸, 大西富雄(鹿児島大), 小坂丈予, 平林順一(東工大)
小沢竹二郎(埼玉大)

第1会場(13:30~17:30)

座長 不破敬一郎(正), 石渡良志(副)

- 1601 都市域堆積物の環境的意義の評価(2)・底泥および水中有機物の生物試験
半谷高久, 宮内慎太郎, °朴吉淳(都立大理)
長尾孝一, 松崎理(千葉大医), 遠藤立一,
佐々木裕子(都公害研)
- 1602 p-クマル酸の泥炭土壌中での存在形態の推察
°広瀬隆雄(神奈川衛生短大)
半谷高久(都立大理)
- 1603 堆積物中の有機物の存在状態について
°河村公隆, 石渡良志(都立大理)
- 1604 河口域における重金属元素の挙動について
北野 康, °坂田昌弘(名大水研)
- 1605 河口水の重金属類の挙動と有機質の影響
°伊藤和男, 成瀬洋児(名古屋市公害研)
- 1606 汚濁海域における底質汚染について
°荻田晴久, 荒川幸夫(愛知県公害セ)
- 1607 底泥からみた東京湾の汚染の歴史
松本英二(地調)
- 1608 アミノ酸による堆積物の年代測定に関する一考察
°田中信幸, 半田暢彦(名大水研)
- 1609 琵琶湖底800m柱状試料の有機物について
°半田暢彦, 田中信幸(名大水研)
- 1610 水月湖堆積物における脂肪酸の鉛直変化
°松田ひろみ, 小山忠四郎(名大水研)
- 1611 東京湾底質の粒度分布と重金属, 有機物質
小林節子(千葉県水質保全研)

- 1612 還元重水素化法を用いた堆積有機物のGC／MS分析
°信楽義夫, 石渡良志, 半谷高久(都立大理)
- 1613 底泥の酸化還元電位の微細構造の測定について
°河合崇欣, 佐竹研一(公害研)
- 1614 ピリジン抽出法により得られる土壌有機物について
°小林公子, 小平潔(足利工大)

第3日 10月22日(土)

第2会場(9:30~12:30)

- 座長 岡部史郎(正), 山県 登(副)
- 2501 栃木県砥川の水質 °小椋英明(千葉大理)
小沢竹二郎(埼玉大), 平山光衛(宇都宮大)
- 2502 一河川水系における水銀の分布
°山県 登(公衛院), 島 誠(理研)
- 2503 河川浮遊物に含まれる21種の金属量の研究について(第1報) エミッション・スペクトログラフ法による同時測定法
°寺岡久之, 小林 純(岡山大農生研)
- 2504 河川浮遊物に含まれる21種の金属量の研究について(第2報) 日本国内における分布
°小林 純, 寺岡久之(岡山大農生研)
- 2505 懸濁時における河川水中の重金属の発生源に関する一知見
°椎川 誠, 久保田秀紀(秋田大教育)
- 2506 木崎湖湖底堆積物中の重金属量について(予報)
°西崎日佐夫, 中島 進
森井ふじ(岡山大農生研)
- 2507 人造湖新生沈殿物中微量重金属元素の沈積形態に関する考察
°大塚治子, 古田正次(愛知県公害セ)
- 2508 強還元性汽水湖(水月湖)の化学特性に関する研究(1) 主要元素の分布
岡部史郎, 佐藤義夫, °小田秀夫, 加藤義久
酒井信恭, 中村鉄也, 柴崎道広, 福田学
(東海大海洋)
- 2509 強還元性汽水湖(水月湖)の化学特性に関する研究(2) 金属元素(Fe, Mn, Mo, V, Zn)
°岡部史郎, 佐藤義夫, 小田秀夫, 加藤義久
酒井信恭, 中村鉄也, 柴崎道広, 福田学
(東海大海洋)

第2会場(13:30~17:30)

- 座長 荒牧重雄(正), 高野稔一郎(副)
- 2601 桜島における最近の火山ガス成分の変遷とその活動状況 °平林順一, 小坂丈予(東工大)
小沢竹二郎(埼玉大)
- 2602 草津白根地域の大気中の火山ガス濃度について
°小坂丈予, 平林順一(東工大)
野村昭之助, 小坂知子, 林 保, 金子英夫
(上智大理工), 高江洲瑩(雙葉学園)
- 2603 登別温泉における化学成分の最近の変化
安孫子 勤(室蘭工大)
- 2604 温泉に関する水銀の分析法の検討
中川良三(千葉大理)
- 2605 北海道白老町周辺の深層地熱水の地球化学的特性 °茂野 博, 阿部喜久男(地調)
- 2606 秋田県小安, 泥湯, 秋の宮地域の熱水の化学組成と同位体組成 °阿部喜久男,
茂野 博, 池田喜代治, 安藤直行, 後藤隼次(地調)
- 2607 大分県挾間町周辺の高塩分泉の同位体組成
°野田徹郎(九大温研), 北岡豪一(京大理)
- 2608 宮城県鬼首地域の熱水の化学組成と同位体組成
°安藤直行, 池田喜代治, 後藤隼次,
阿部喜久男, 茂野 博(地調)
- 2609 岩手県滝の上地域の熱水の化学組成と同位体組成
°池田喜代治, 後藤隼次, 安藤直行,
阿部喜久男, 茂野 博(地調)
- 2610 大分県長湯温泉の炭酸物質について
川野田実夫(大分大教育)
- 2611 阿蘇湯の谷の地球化学的研究—化学的地熱探査のすすめ
°古賀昭人, 野田徹郎(九大温研)
- 2612 温泉のリチウム含量に関与する因子について
°高松信樹, 今橋正征(東邦大)
神谷 宏(名工大)
- 2613 塩酸水溶液と過剰の火山岩の反応(3)
吉田 稔(東工大理)

第3日 10月22日(土)

第3会場(9:30~12:30)

- 座長 小嶋 稔(正), 野津憲治(副)
- 3501 隕石中のTa, Hfの分布
°牧野友子, 本田雅健(東大物性研)

- 3502 Allende隕石中の希土類元素
°海老原 充, 本田雅健(東大物性研)
- 3503 Allende隕石構成物質中のクロム同位体比
°仁藤 修, 鎌田正弘, 本田雅健(東大物性研)
- 3504 Allende隕石の蒸発実験(I)
°野津憲治, 西田憲正, 小沼直樹(筑波大)
長沢宏(学習院大)
- 3505 Allende隕石の蒸発実験(II)
°小沼直樹, 野津憲治, 西田憲正(筑波大)
長沢宏(学習院大)
- 3506 炭素質コンドライトのevaporation metamorphism °橋元明彦(名大理), 小沼直樹(筑波大)
- 3507 Allende Inclusion(IV) OおよびMgのMass fractionationと希土類元素含有量
°長沢宏(学習院大), 小沼直樹(筑波大)
樋口英雄(分析センター), 清水 洋,
増田彰正(神戸大理),
D. P. Blanchard(NASA)
- 3508 粒子成長過程の希ガス吸収—惑星形成についての一考察 °本田勝彦, 小島稔(東大理)
加藤学(名大理)
- 3509 石英と水の間の ^{16}O - ^{17}O - ^{18}O 同位体交換反応
°松久幸敬(地調), J. R. Goldsmith,
R. N. Clayton(シカゴ大)

第3会場(13:30~17:30)

- 座長 田中重男(正), 柳田昭平(副)
- 3601 希ガス原子重合融合による全原子の核融合理論
吉岡亀太
- 3602 やまと隕石中の宇宙線生成核種
西泉邦彦(立大理), 今村峯雄(東大核研)
井上照夫(東大核研), 高岡宣雄,
長尾敬介(阪大理), °本田雅健(東大物性研)
- 3603 深海底堆積物中の ^{53}Mn
°今村峯雄, 井上照夫, 田中重男(東大核研)
- 3604 深海底土中の ^{59}Ni
°山越和雄, 柳田昭平(東大宇宙線研)
- 3605 海底土中のspherule: silicate spherule 中の微量元素
°長沢宏(学習院大), 樋口英雄(分析センター)
島村匡, 山越和雄(東大宇宙線研)
- 3606 マンガン団塊中の ^{10}Be
°井上照夫, 今村峯雄, 田中重男(東大核研)

座長 兼岡一郎(正), 柳田昭平(副)

- 3607 海底堆積物中の希ガスの拡散係数の測定
°大隅多加志, 堀部純男(東大海洋研)
- 3608 深海底白亜紀枕状溶岩中の希ガス同位体研究
°高岡宣雄, 長尾敬介(阪大理)
- 3609 ダイヤモンド中の希ガス組成と同位体比
高岡宣雄(阪大理), °小島稔(東大理)
- 3610 希ガス同位体よりみた上部マントル
°兼岡一郎(東大理), 高岡宣雄(阪大理)
青木謙一郎(東北大理)
- 3611 箱根温泉のヘリウム同位体比
°堀部純男(東大海洋研)
H. Craig
(スクリップス海洋研)

日本学術会議第72回総会報告

日本学術会議第72回総会は、4月26~28日の3日間、新緑に包まれた本会議講堂で開かれた。冒頭、会長から石田 良(第一部), 山田龍雄(第六部)の両地方区選出会員が各地方区に所属しなくなったため規則により退職し、かつ次点者がいないため欠員となったこと及び事務局職員の異動が報告され次いでオブザーバーとして出席した琉球大学上原方成, 沖縄大学安良城盛昭両教授の紹介があった。

〔諸報告〕 ついで日程に入り前総会以後の会長経過報告が行われた承された。そのうち特に「環境影響評価制度」についてその名に値する制度の実現を念願として政府に申入れを行ったことが述べられた。続いて運営審議会付置各小委員会の報告に移ったが第10期の活動のとりまとめ小委員会から報告に関連して提出された「転換期の科学・技術」と題する報告書作成の方針, 内容案等は活発な議論の後大筋で了承された。なお同小委員会の名称は第2日に「科学・技術政策のあり方に関する報告書作成小委員会」と決定した。沖縄連絡小委員会からは沖縄県の学術体制に関し琉球大学医学部開設の内示等や、明るいきざしが見えてきた旨報告された。午後の常置, 特別各委員会の報告では資源・エネルギー, 学術情報・資料特別委員会から秋の総会に提出予定の勧告案の説明が行われた。

〔提案審議〕 2日目の冒頭、「生態学研究所」（仮称）の設置についての勧告が提案された。戦後生態学は生物学の重要な一分野として急速な発展を遂げ、純粋に学問上の立場からも、また環境の保護・保全や生物資源の管理・利用の観点からも、ますます重要視されるに至っているが、現在我が国ではその基礎問題を扱う総合的な研究所は皆無である。そこで国立の共同利用研究所としての本研究所の設置が計画された。本研究所と他機関との関連、研究分野の範囲等について活発な意見が述べられたが、討議の末賛成多数で採択された。

次いで「リハビリテーションに関する教育・研究体制等について」の勧告が提案された。戦後30年の今日、心身の障害のため人間として生きる権利の行使が妨げられている人々について、その「全人間的復権」を図ることを理念とするリハビリテーションの重要性が増大してきているが、その活動に従事する専門的教育・訓練を受け、広く社会や人間に関する理解を基礎とした人間性豊かな職員の十分なる確保と、そのための資格制度の確立、教育研究体制の整備は大変遅れている。本提案は、(1)リハビリテーション医学教育研究の充実 (2)理学療法士、作業療法士教育の充実 (3)言語療法士、義肢装具士、医療福祉士（何れも仮称）等の資格制度の創設と教育について、政府が必要な措置を講ずるよう勧告しているものである。二三のコメントが出された後、賛成多数で採択された。

次に「婦人研究者の地位の改善について」の要望が提案された。この提案は婦人研究者の地位の改善等のため差し当り、(1)国による婦人研究者の実態調査の実施 (2)科学研究分野への婦人の職業的参加 (3)研究者の採用・昇進等における男女の機会均等 (4)婦人研究者の母性保護上の措置等に関し、政府が積極的な施策を講じるよう強く要望している。これに対し、要望では弱い、勧告にすべきであるとの積極的な意見が活発に出されたが、一つのステップであるからとのことで原案どおり採択された。なお審議の際傍聴席には多数の婦人研究者の顔がみられた。

「日本学術会議の使命達成に必要な予算の早急な実現について」(要望)の提案は満場一致で採択された。これは本会議の予算、特に主要な職務である国際学術交流と審議経費の規模が極限にまで狭小化している現状分析を踏まえ本会議にふさわしい予算編

成のあり方と当面必要な最低限度の予算規模の早急な実現を要望したものである。この外、「科学技術会議の第6号答申(「長期的展望にたった総合的科学技術政策の基本について」)が行れた際の措置について」ほか2件の申合せが提案され採択された。

〔自由討議〕 2日目の午後、提案審議終了後、人間と科学特別委員会がまとめた「人間と科学」に関する提言(案)について自由討議が行われた。この提言(案)は人間と科学の問題を (1)人間の生命の尊重 (2)科学と人間 (3)科学技術と人間 (4)国民の資質・能力の形成 (5)科学者の責任という五つの原則からとらえたものであるが、人間と科学の未来等について活発な意見が交された。第3日の「米国の新しい核政策とその我が国の原子力研究開発への影響」についての自由討議ではこの際本会議として発言すべきであるという意見が強かった。

総会前日の午前中開催された連合部会では人間と科学特別委員会からの話題提供により「科学者憲章」(仮称)(第三次案)との関連での科学者の責任の問題及び組換えDNAにかかわる問題が活発に議論された。なお、今総会の出席率は第1日から第3日まで、それぞれ89%、86%、79%であった。

日本学術会議広報委員会

第26回国際純正応用化学連合化学会議 (26th IUPAC Congress) 3rd サーキュラー配布開始

1977年9月4日から10日まで、東京赤坂プリンスホテルを中心として開催される標記会議の準備は順調に進んでいる。プログラムを含めた3rdサーキュラー配布希望者は、実費700円送料300円計1000円を添え下記に申込むこと。

〒101-91 神田郵便局私書箱56号 IUPAC係

編集者 山県 登 発行所 日本地球化学会
〒166 東京都杉並区高円寺北4-35-8
気象研究所地球化学研究部内(03)337-1111内75
振替東京8-38679、三菱銀行高円寺支店、
北海道拓殖銀行荻窪支店、三井銀行高円寺支店